



のびのび若っ子



いじめ ストップ!

～ ピンクシャツ・デー 2月22日 水曜日 ～

副校長 井関 眞澄

今季1番の寒波が来ると言われた先週。登校時の積雪や凍結を心配しましたが、氷の張った池の周りには、ランドセルを背負ったままの子どもたちでにぎわいました。厚さ1.5cmはある氷を棒でつついたり、足で割ってみたり・・・寒さを楽しむ光景は、今も昔も変わりません。

さて、「ピンクシャツデー」という取組をご存知でしょうか。ピンクシャツデーは、カナダの高校生が始めた「いじめ反対運動」です。毎年2月の最終水曜日に、ピンク色のシャツを着たり、ピンク色の物を身に付けたりすることで、「いじめ反対」の意思表示をします。この運動のシンボルがピンクシャツとなった理由は、カナダの学生が起こした行動に由来します。

舞台は2007年、カナダのノバスコシア州のあるハイスクールでのことです。ある日、ピンクのシャツを着て登校した9年生（日本でいう中学3年生）の男子が、シャツの色をからかわれていじめにあい、耐え切れず帰宅してしまいました。その出来事を聞いた12年生（高校3年生）の男子2人が、「いじめなんて、もう、うんざりだ!」とその日の放課後、自分たちでピンクのシャツを75着用し、明日みんなでピンクシャツを着て行こう、と友達に呼びかけました。呼びかけはあっという間に広がり、翌日には大多数の生徒がピンクシャツを着たり、シャツがなければピンク色の小物を身に付けたりして登校し、その日は学校中がピンク色で染まりました。二人の意思は一晩のうちに広まったのでした。いじめられた生徒はその様子を見て、肩の荷が下りたような安堵の表情を浮かべていたそうです。以来、そのハイスクールでいじめを聞くことはなくなりました。学生が起こしたこの行動が、カナダのみならず、世界各地に広がり、「ピンクシャツデー」として定着し、日本でも年を重ねるごとに知られてきました。横浜市でも、教育委員会事務局からポスターが届くようになり、市内の公立学校への啓発もされてきました。今では、1年に1日だけでなく、2月を「ピンクシャツ・デー月間」としたり、毎月最終水曜日を「ピンクシャツ・デー」にしたりと、「いじめストップ!」の意識を高めるための取組が行われてきています。

大切なことは、この取組を、その日その時だけのキャンペーンにしないことだと思います。ピンクのシャツを着ることやピンクの何かを身に付けることが目的ではありません。このことをきっかけにして、日常生活の中で『いじめをしない、させない、許さない』ことを見つめることが大切です。

自分が気を付けているか、自分が周りのことに気付けるか、よくないことはよくない、と言い出せるか・・・自分ならどうするかを、ご家庭でも話し合っただけであれば幸いです。そして、お子さまの表情に、いつもと違う様子を感じたら、・・・『かなしいきもちね、ふたをしなくていいんだよ・・・』と話しかけ、気持ちを聞いていただければと思います。 いじめストップ!



引用「きみのことがだいすき」作・絵 いぬいさえこ

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』